

神戸一中サッカー部 人名録

文・瀬戸本 淳 (建築家)



瀬戸本 淳(せともと じゅん)
株式会社瀬戸本淳建築研究室 代表取締役

1947年神戸生まれ。一級建築士・APEC アーキテクト。神戸大学工学部建築学科卒業後、1977年瀬戸本淳建築研究室を開設。以来住まいを中心に、世良美術館・月光園湯屋館など、様々な建築を手がけている。神戸市建築文化賞、兵庫県さわやか街づくり賞、神戸市文化活動功労賞、兵庫県まちづくり功労表彰、姫路市都市景観賞、西宮市都市景観賞などを受賞

2015年(平成27)1月にチューリッヒでおこなわれたFIFAバロンドール授賞式、クリステアーノ・ロナウドが世界年間最優秀選手賞の荣誉に輝いた同じ舞台上、ひとりの日本人が立った。彼の名は賀川浩。FIFA会長賞を受賞した現役最年長のサッカージャーナリストだ。1924年生まれ。神戸一中(43回生)時代には前回で紹介した河本春男の薫陶を受け、センターフォワードとしてチー

ムを牽引。2度の全国優勝を果たした。卒業後は進学するも陸軍に召集され、特攻隊員となり死を覚悟するが出撃予定の数日前に終戦を迎える。復員後も再びフィールドを駆け、天皇杯準優勝を経験。1952年(昭和27)より産経新聞、その後サンケイスポーツ、定年退職後はフリーのサッカージャーナリストとして活動。10大会ものワールドカップを取材するなど世界を飛びまわり、サッカー界

の生き字引として現在も活躍、日本サッカー殿堂入りも果たしている。

賀川浩は世界のサッカーに通じているだけでなく、神戸一中のサッカー部の歴史も丹念にまとめている。その記録などから神戸一中サッカー部ゆかりの人物を紹介しよう。

ワードとは華やかで彼らしい。彼の兄、白洲尚蔵(17回生)もサッカー部でプレー、ゴールキーパーだったそうだ。

白洲尚蔵からキーパーグローブを受け継いだ繁多龍平(19回生)は、開港の時代に神戸の近代化に尽くしたE・H・ハンターの孫にあたり、祖父の血を継いで長身だったようだ。卒業後は慶應義塾に進学し、サッカー部(慶応では今でもサッカー部ではなくソッカー部という)の創設者の一人として名を連ねている。慶応ではイギリス植民地のビルマ(現在のミャンマー)出身でスコットランド人からサッカーを学んだと推測されるコーチ、チョウ・ディンの指導を受けるだけでなく、神戸一中の後輩たちへも

指導するように取り計らい、神戸一中はチョウ・ディン仕込みのショートパス戦法で強豪の仲間入りを果たしたという。チョウ・ディンは全国をコーチとして巡回、日本サッカー草創期での技術の伝授が評価されて日本サッカー殿堂に選出された。

賀川浩、チョウ・ディンのほかに、日本サッカー殿堂入りを果たした神戸一中サッカー部ゆかりの人物が5名いるが、いずれも賀川浩とともに黄金期を支えた逸材ばかりだ。二宮洋一、大谷四郎・賀川太郎(賀川浩の兄)はいずれも河本春男の指導を受け、後に日本代表で活躍。岩谷俊夫、鶴田正憲も日本代表経験がある。大谷と岩谷はサッカー記者や指導者としてもサッ

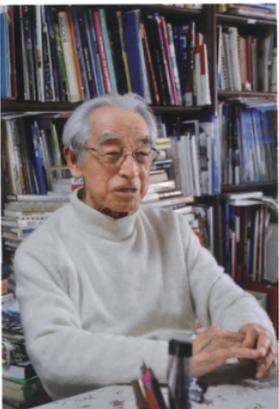
カー界に貢献した。

(神戸高校になってからも第13代日本サッカー協会会長の大仁邦彌、国際審判員としても活躍した元兵庫県サッカー協会会長の長岡康規など多くの優秀な人材を輩出している。

ジュニアからINAC神戸、V.I.S.S.E.L神戸と、神戸のサッカーは熱い応援を支えられている。語り出すと止まらないサポーターが身近にあふれている神戸は、奮闘の楽しい夢を見させてくれる。

※敬称略

※兵庫県立神戸高等学校同窓会発行の「闘友」、賀川浩戦前のサッカー育成(講演資料)、賀川浩サッカーライブラリーホームページ、兵庫県サッカー史ウェブサイトを、日本サッカー協会ホームページなどを参考にしました。



賀川 浩(かがわ ひろし)
スポーツライター

1924年、神戸市に生まれる。神戸一中、神戸経済大(現・神戸大)大阪クラブなどでサッカー選手。全国大会優勝、東西対抗出場、天皇杯準優勝などの経験をもつ。1952年からスポーツ記者、1975年から10年間のサンケイスポーツ編集局長(大阪)などを経て現在フリーランスとして、現役最年長記者。ワールドカップの取材10回、ヨーロッパ選手権 5回、南米選手権1回。2010年日本サッカー殿堂入り。2015年FIFA会長賞受賞

2011年6月号掲載